エコ発する事業評価委員会　議事録

日時：令和元年５月 27 日（月）　13：30～15：40
場所：福岡市役所本庁舎 15Ｆ　1504 会議室
出席者：エコ発する事業評価委員　５名
〔松藤会長，久留副会長，依田委員，朝廣委員，花田委員〕
発表団体　４団体
事務局　５名

■会長の互選・会長による副会長の指名

評価委員会設置要綱第５条第２項に基づいた互選の結果，会長は松藤委員に決定。
同条第 4 項に基づいた会長による指名の結果，副会長は久留委員に決定。

■申請事業の評価

◆申請団体による事業計画の説明（1 団体 18 分：発表 10 分，質疑応答 8 分）

以下，質疑応答内容〔Ａ：委員，Ｂ：団体〕

１．愛宕の森と緑を守る会

Ａ：ツクシヤマザクラを植えていこうというのが，今回の大きな趣旨か。

Ｂ：そうだ。

Ａ：今までは植えていなかったのか。

Ｂ：はい。桜を保全するには，費用が相当掛かるため，今回支援をしていただきたいと思っている。

Ａ：３年間の計画がすべて同じであるため，目標や計画がもう少し具体的にわかるよう，申請書の記載をお願いしたい。

Ｂ：具体的な記載が難しかった理由が２点ある。１点目は，私たち自身に専門的な知識や技術，経験というものが不足しているという点。２点目は，桜の苗木を育て，実際に土地に植えるには，約２，３年掛かるという点。

Ａ：これまでに活動に参加している人数はどのくらいか。

Ｂ：全体では 80 名ほどいる。どの分野に関心があるかによって，集まる人数も変わってくる。20 名前後で分野ごとに様々な役割を担っている。また，会員だけで活動を行っているのでなく，市民参加型で行っている。

Ａ：分野ごとにグループがあり，リーダーとなる人材はいるのか。

Ｂ：固定した人が参加している。また，部隊を複数個設けようとしているが，うまくいっていない。専門家を入れて行っていくのが課題だ。

Ａ：苗木を育てるにあたり，大学の演習林等の協力を要請するなど，具体的な計画は検討しているか。

Ｂ：苗木を作る段階から，実験的な面も含め，市民の手で第１段階から取り組んでいきたいと思っている。

Ａ：桜はどこに植える予定なのか。

Ｂ：３年間は，今伐採している跡地に植林する予定。

Ａ：植林について，土地の所有者の了承は得ているのか。

Ｂ：市とは協議を行うこととなっている。愛宕神社は口頭での了解を得ている。

Ａ：探索路を設置し，探検する活動は，市民が参加する活動なのか。また，人は集まるのか。

Ｂ：先週の活動では 25 名ほど集まった。参加者は年配の方や女性が多かった。竹林伐採についても，体力のある方の協力を得ながら，市民とともに取り組んでいきたい。

２．樋井川グリーンメイト

Ａ：雨水タンクはどこに設置するのか。

Ｂ：かるがもテラスで考えている。

Ａ：それは，市の土地なのか。

Ｂ：川は市だが，土地は県になる。すぐに撤去が可能であれば，使用可能となっている。

Ａ：かなり広域に色々なグループがあるが，他のところはどのような運営体系なのか。上流から中流まで一緒に活動することはできないのか。

Ｂ：区役所は区役所で，各団体自己資金で活動している。我々が音頭を取り，１つにまとめたいとも思うが，自己資金の関係で難しい。

Ａ：地域としての活動というだけでなく，広く一般市民も巻き込んだ活動にしていくとよいと思う。

Ｂ：自治会長やおやじの会，子どもたちを巻き込み活動していけたらと思っている。

Ａ：市の補助金を使用するため，地域の特定の方だけの活動ということではなく，２年目，３年目と広がりが出てくると補助金の意味がもう少し膨らむのだが。

Ｂ：今期は水草を植えるなどの活動もあり，市民の方が見たいと思えるようなものを作り上げていきたいと思っている。

Ａ：ワークショップの成果はどのように図るのか。

Ｂ：団体共有や，一般市民参加という形で，市民がなるべく参加できるような形で行っていきたい。

３，水と緑の楽校

Ａ：これまでの活動に，学生がどのくらい関わってきたのか。また，一般の方が活動に関わった際，その活動経験が継続的に環境教育などにつながっているのか。

Ｂ：１番多いときで，30 名ほどの学生が携わっている。１回だけ参加し，「楽しかったね」だけで帰っていく子どもも非常に多い。参加者の声にもあるように，何度も参加している子どもや，地域交流センターなどによく来てくれる子どもには，我々の伝えたいことは伝わっているのではないかという実感はある。

Ａ：今回のテーマが人材育成ということで，４年目の成果を報告会で聞きたい。

Ａ：人材スキルを評価するために，外部の資格などを参加者に取得させるような取り組みを行うことは考えているのか。

Ｂ：資格を取るというのは少しハードルが高いかと思っているが，企画に携わる中で，研修を自主的に受けに行っている人もいる。

Ａ：例えば，学生であれば，参加していく中で，自然に関する資格や，指導者としての資格を取りたいといったような可能性も出てくると思うが。

Ｂ：学生については，毎年入れ替わるため，毎年どこまで教えていけるかというのが課題となる。一方で，携わった学生の中には，就職した後，資格を取ることにチャレンジしている人もいる。我々の人材育成の効果ともいえると感じている。

Ａ：今までの課題を受けて，今年度の目標はあるか。

Ｂ：活動している樋井川近くの中学校や高校の科学部などと連携できないかと考えている。

Ａ：資格を取るというのは，受講料やテキスト料など，費用が掛かるためハードルが高いと思う。任意団体を作り，初級終了認定などの名称を与えてはどうか。また，大学連携協議会のようなものに参加してみてはどうか。

Ｂ：人材育成ワーキングに参加している。その中でも，どのように人材育成を行っていくかという話も出ているため，我々もアイデアを出していこうと思っている。

４．ももち浜ワカメ養殖実行委員会

Ａ：今回が４年目ということで，「物質循環」に力を入れていくということなので，成果を楽しみにしたい。

Ｂ：食の安全は我々自身で守る必要があり，食べることを通して，五感を通じて学んでいくことを目指している。

Ａ：昨年までの総括の課題として，資金の自立を図る必要があると書かれているが，どのように行ってきたのか。

Ｂ：「エコ発する事業」に採択されるというのは，意義がある。福岡市が採択した事業であればと，協賛金も入り，それが年々続いているため，資金面での心配はあまりしていない。また，日本財団から，内部の情報公開が不十分であるという指摘を受け，今年度はホームページを開設し，広報にも力を入れていこうと思っている。

Ａ：今年度の民間助成金は，どこからか。金額は確定しているのか。

Ｂ：種を植え付けるところまでを「エコ発する事業補助金」で，残りの部分（収穫）を「みなと総研」にお願いしている。

◆委員による評価

（以下，福岡市情報公開条例第７条第４号により非公開）